

# ハナイグチ林地増殖の手引き



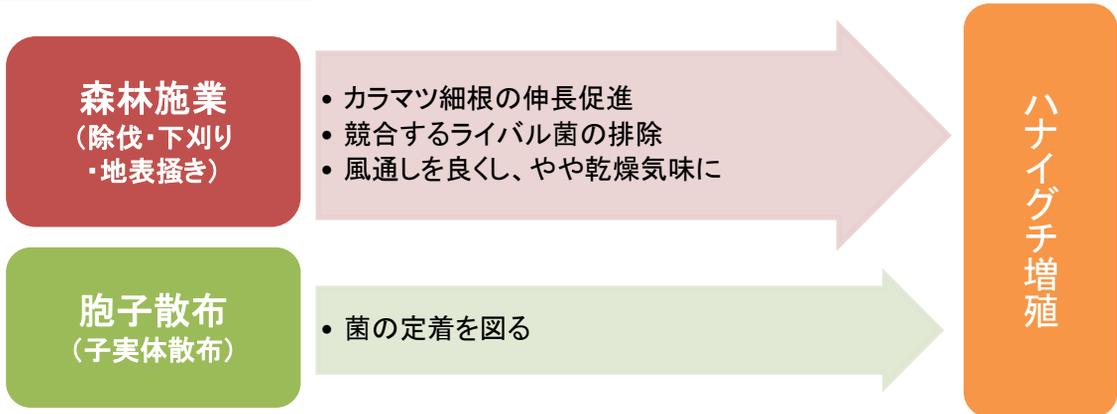
## ハナイグチとは

イグチ科ヌメリイグチ属のきのこ。傘は赤褐色から黄褐色で著しいぬめりがあり、管孔は鮮黄色。別名「ジコボウ」「リコボウ」とも呼ばれ、夏から秋にかけてカラマツ林内に発生。生きたカラマツの根に菌根を形成し、栄養分等のやりとりを行う菌根性きのこ。

# ハナイグチの林地増殖に適したカラマツ林の条件

項目	条件	備考
林 齢	15年生～	70年生以上でも増殖例がある
立木密度	200～1500本/ha	
地 形	尾根～中腹	谷筋は不適
土 壌	幅広く適用	マツタケほど土壌を選ばない
林 型	単相林、混交林どちらでも良い	針広混交林として管理可能
ハナイグチ発生	過去に発生していた又は、現在発生している場所の方が効果が高い	未発生林の場合は、近くに発生林があるとよい

## ハナイグチ増殖方法



## 森林施業・孢子散布状況



森林施業前

### 孢子(子実体)散布

※ビニール袋内でハナイグチ子実体を  
もみ砕く



地面に直接散布



施業後

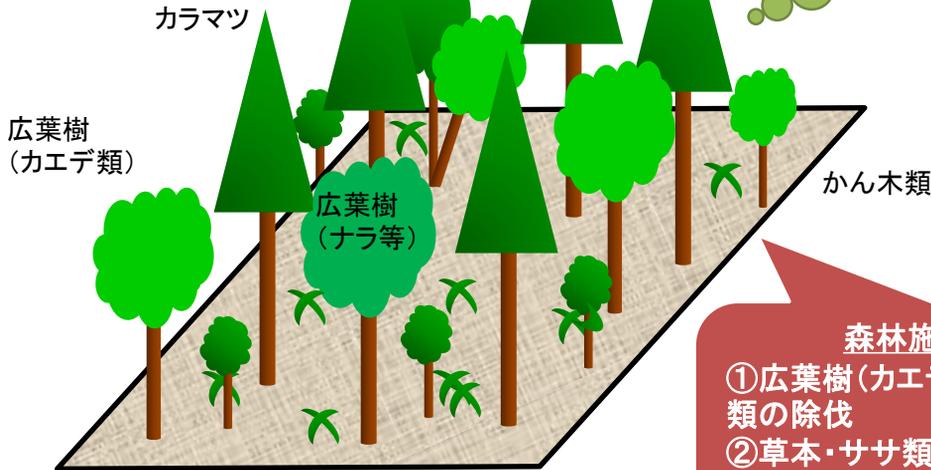
除伐・下刈り・地表掻き



ハナイグチ子実体収穫

# ハナイグチ増殖方法 模式図

施業前



広葉樹、かん木類、草本・ササ類、厚い落葉・腐植層  
→ハナイグチ発生に悪影響

## 森林施業・孢子散布

- ① 広葉樹(カエデ類※1を除く)、かん木類の除伐
- ② 草本・ササ類の刈払い
- ③ 落葉・腐植層※2を薄く除去
- ④ 孢子(子実体)散布※3

森林施業  
は3~6月  
がいいよ。

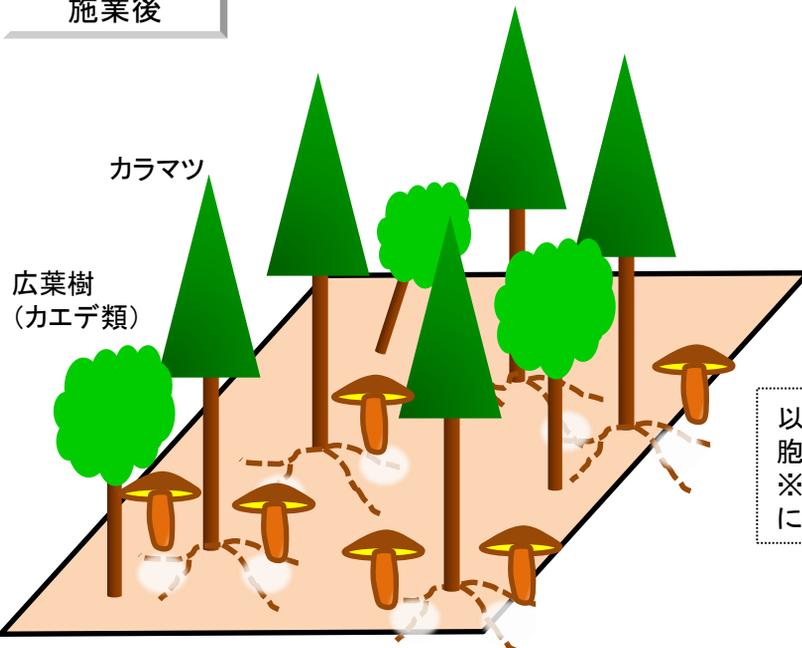
※1 カエデ類には外生菌根菌(ハナイグチのライバル)が付かないことから、施業後のかん木類の萌芽抑制のため、ある程度残しておく。

※2 腐植層にはハナイグチの菌根が存在することから、厚く堆積している場合には、表層を薄く除去する程度とする。

※3 水で希釈し散布する場合は以下の方法で行う。

濃度: 子実体の管孔部分300g(細かく砕く)に対して水(河川水等)10ℓ  
散布方法: ジョウロなどで林床に散布する。250~300ℓ/ha  
時期: 降雨の直前又は夕方

施業後



- ・カラマツ細根の伸長促進
- ・競合する菌(ライバル)の排除
- ・ハナイグチの菌根形成促進

以後は、森林の状況を見ながら森林施業・孢子散布等の管理を継続する。  
※孢子散布は2、3年継続し、以降は数年毎に散布を繰り返す

ハナイグチ増殖



### 問い合わせ先

長野県林業総合センター

〒399-0711 長野県塩尻市片丘5739

TEL0263-52-0600 FAX0263-51-1311

E-mail

http